

カラダもココロも健康に

いきいきらしいふ

no.73
2021.AUTUMN

徳大病院だより



特集

ロボティックアームによる 人工股関節手術の開始

■CLOSE UP

総合診療部について

■tokudai-staff information

■地域連携の部屋

・地域連携病院③「医療法人 三成会 水の都記念病院」

■病院のお仕事いろいろ

・理学療法士



 徳島大学病院
Tokushima University Hospital

特集 ロボティックアームによる人工股関節手術の開始



■説明は
徳島大学病院 整形外科
特任准教授
後東 知宏(ごとうともひろ)

■お問い合わせ先
整形外科外来
Tel: 088-633-7237
※整形外科の受診には、
紹介状が必要です。

本院では、令和3年4月よりロボティックアーム手術支援システム「Mako」による人工股関節手術を開始しました。国立大学で初めて本院が導入した「Mako」による手術について、整形外科の後東医師にお話を伺いました。

人工股関節手術とは

股関節は、私たちの日常生活を支える大事な関節のひとつです。加齢、病気などが原因で股関節に異常があると、立つ・歩くといった基本的なものや、靴下が履きにくいなどの動作が困難になり、日常生活に支障をきたすようになります。人工股関節手術(人工股関節全置換術)は、本院では、主に変形性股関節症、大腿骨頭壊死、関節リウマチの患者さんのうち、薬物療法、運動療法などの治療で効果が現れない場合に適用される手術のひとつで、痛んでいる骨を取り除き、特殊な金属やセラミックで人工的に作られた股関節(インプラント)に置き換えるという手術です。個々の患者さんの状態に合わせ、正確な位置にインプラントを設置することが求められます。

人工股関節全置換術の対象となる主な疾患

変形性股関節症	大腿骨頭壊死	関節リウマチ
主に加齢により骨が変形し、関節の骨が曲がってしまう病気。軟骨がすり減って痛みが起こる。本院が対象とする疾患で大半を占める。	大腿骨頭の一部に血が通わなくなり、壊死(骨組織が死んだ状態)する病気。本院では膠原病の治療に用いるステロイドを原因とするものが多い。	膠原病の一種で、様々な場所の関節に炎症が生じ、痛みやこわばりが出る自己免疫疾患。

患者さんへ一言

本院の整形外科では、最新の技術を利用して、患者さんに少しでも負担の少ない治療に取り組んでいます。

ロボティックアーム手術支援システム「Mako」



人工股関節全置換術は、骨の切除やインプラントの設置など術者の技術に委ねられる手術ですが、本院では長年、CT画像の詳細なデータから、ナビゲーションシステムを用いて、骨の削る深さやインプラントの種類、設置位置について入念な術前計画を行い、術中もナビゲーションでモ

左「Makoロボティックアーム(股関節置換術)」
右「人工股関節」
(画像提供)日本ストライカー株式会社

ニタリングしながら手術をすすめるなど、より安全で正確な最小侵襲手術(可能な限り患者さんの身体の負担にならない手術)に取り組んできました。

ロボティックアーム手術支援システム「Mako」はナビゲーションシステムと同様に手術操作自体は術者が行いますが、ロボティックアームの最大の特徴は、アームの動きが術前計画に基づいて制御される点です。つまり、事前に立てられた計画から外れた動きはアームの機能により制御され、手のぶれもなく、不必要な骨の切除や、筋肉、靭帯などの軟部組織の損傷を最小限に防ぐことができるため、従来よりもさらに高いレベルで安全かつ正確に、患者さんに負担をかけずインプラントを設置することが可能となりました。一部の例外はありますが、これまで以上に患者さんの術後の痛みが軽減し、早期に機能回復することが期待できます。

徳島大学病院としての今後

現在、本院での「Mako」による人工股関節全置換術は、骨形状や体型などを考慮し適応を判断しています。今後適応を拡大し、安全性が高いロボティックアーム

によるこの手術をより多くの患者さんにご提供できるように取り組んでいきます。



「トクシンに載っとるでよ！」
地域のニュースが人々を結びます

郷土と共に歩む
徳島新聞社

ご購入のお申し込みは ☎0120-46-1940
www.topics.or.jp

CLOSE UP!



■説明は
徳島大学病院
総合診療部 病棟医長
山口 隆裕
(やまぐち はるたか)

■お問い合わせ先
内科外来
Tel : 088-633-7118

患者さんへ一言

原因がわからない、どこを受診すればいいかわからない、といった症状でお悩みの方は、かかりつけの医師とご相談のうえ、総合診療部を受診ください。誠心誠意、対応させていただきます。

総合診療部について

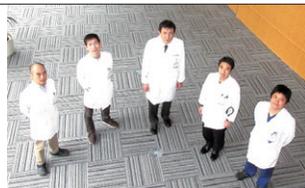
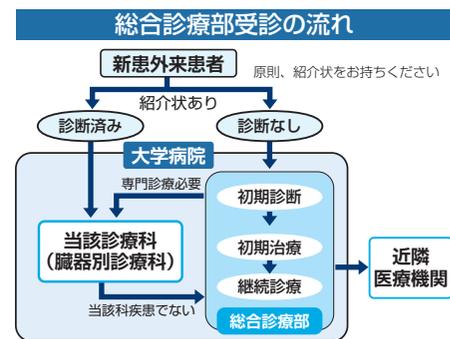
今回は、2017年6月に外来診療を開始した徳島大学病院総合診療部をご紹介します。

○ 総合診療医とは

なんだか調子が悪いなと思っても、原因が分からず、どの診療科にかかれればよいか迷う方も多いのではないのでしょうか。総合診療医は、年齢、性別、臓器や疾患などを限定せずに「幅広い視野で患者と地域を診る専門医」で、簡単にいうと「身近で、なんでも診てくれるお医者さん」です。近年、高齢化や生活習慣の変化に伴う慢性疾患の増加、疾患の多様化や心理社会的要因の関与が注目されていますが、総合診療医は、それらに対応できる日本では新しい専門分野の医師です。

○ 総合診療部の取り組み

総合診療医は、主に地域で診療を行う医師ですが、本院では、他の病院や院内の他の診療科より紹介された診断困難症例を中心に診療しています。また、院内で発生した体



総合診療部のスタッフ

調不良の方にも対応しています。

診断は、医療面接と身体診察を大切にしながら疾患の可能性を絞り込み、診断の確定／除外のために必要に応じて血液検査・画像検査などを行います。また専門診療科を紹介させていただく場合もあります。

治療は、疾患と患者さんによって様々ですが、総合診療部で継続診療する場合、専門診療科を紹介する場合、紹介元医療機関に逆紹介する場合などがあります。一般医学的治療に加え、心理的要因や社会的要因(仕事や家庭など)が症状に大きく関連していると考えられる場合には、患者さんと相談しつつそれらに対するアプローチも行っていきます。

また、2018年6月には入院診療も開始し、診療体制の充実が図られています。

○ 総合診療医の育成の場として

総合診療部は、総合診療医の育成にも力を注いでいます。現在7名が専攻医として研鑽に努めていますが、本院を拠点としつつ、総合診療医の主な活躍の場である地域医療機関でトレーニングを積んでいます。大学病院における総合診療は、総合診療医としては特殊な領域ですが、様々な診断困難症例の経験を積むことができるため、育成には重要な場所です。

今後は大学病院でも経験を積んだ総合診療医を地域の基幹病院や身近な診療所などに多く送り出すことができるよう取り組んでまいりたいと考えています。

tokudai-staff information

新任のごあいさつ



副病院長
(歯科担当)
歯周病科長・
高次歯科診療部長
湯本 浩通
(ゆもと ひろみち)

4月から副病院長(歯科担当)を拝命いたしました。近年、歯周病などの口腔感染症と全身疾患との関連に加えて、口腔ケアによる入院期間の短縮や手術後の合併症の減少なども示されており、医科歯科連携の重要性が高まっています。このことから、歯科全体の取り組みとして、口腔管理センターの周術期口腔機能管理体制を一層強化しました。今後も安全・安心かつ高度・先進的な歯科医療を提供できるように運営し、地域の皆様のQOLの向上に努めて参りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



副病院長
(医療安全管理担当)
脳神経外科長
高木 康志
(たかぎ やすし)

令和3年4月1日付けで副病院長(医療安全管理担当)となりました高木です。安心・安全で質の高い医療を地域の皆様にお届けすることは徳島大学病院の使命です。安全管理部や感染制御部をサポートして、これまで以上に徳島県の皆様に貢献できるように、力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



小児歯科長
岩崎 智憲
(いわさき ともひろ)

令和3年2月1日付で小児歯科長を拝命いたしました岩崎智憲と申します。私はこれまで顎骨が未発達のために発症する小児の睡眠時無呼吸の診断、歯科的治療、そして歯科的予防の研究と臨床に力を入れてきました。今後は小児のう蝕などの一般的な歯科疾患だけでなく、睡眠歯科医療の面からも徳島の医療に貢献できるよう努力してまいりますので何卒宜しくお願い申し上げます。



腎臓内科長
脇野 修
(わきの しゅう)

4月1日大学院医歯薬学研究部腎臓内科分野に着任いたしました。前任地慶應義塾大学では生活習慣病による腎臓病診療にかかわりました。糖尿病や高血圧による腎臓病は早めの対策が大切です。腎臓病の重要性を徳島県に広めたいと考えております。また大学病院では総合腎臓病センターを設立し、病院全体の腎臓病の診療をさらに充実させております。地域の先生方、そして病院内の他科の先生方の診療に貢献できるよう尽力いたします。



むし歯科長
保坂 啓一
(ほさか けいいち)

私はこれまで、低侵襲の機能・審美接着再生治療を専門とし、むし歯の治療、すりへった歯の治療、変色歯のホワイトニング治療などを行って来ました。最近では、発展著しいデジタル技術を活用することで、治療時間が短く、かつ正確で精度の高い治療が可能になりました。患者さんの健康な歯を削らず保存することによって、地域の方々の健康増進に貢献できるよう尽力しますので宜しくお願いいたします。



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆さま等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.42

地域連携病院③「医療法人 三成会 水の都記念病院」

今回は、徳島市北島田町にある水の都記念病院をご紹介します。

■水の都記念病院の取り組み

水の都記念病院は、昭和2年に佐々木医院として開院以来、地域に根ざした病院として診療しており、総合病院として内科診療部、外科診療部、脳神経外科、整形外科などの診療部門を有しています。

現在、外科領域では、肛門疾患治療、鼠径ヘルニアの腹腔鏡下手術や高齢者の骨折手術に力をいれています。また、脳卒中については、24時間体制でMRI検査を稼働することで迅速な判断を可能にしており、リハビリは、徳島大学病院の医師と連携し、ロボットスーツHAL（ハル）を用いて積極的に行っています。

内科領域では、糖尿病について、昨年度より専門医が常勤して診療をするようになり、より厚い診療が可能となったため、徳島大学病院と連携を深めることが期待されます。

また、がん分野では、大学病院での治療が終わった患者さんの受入を行い、ご家庭に帰るためのリハビリをしています。緩和ケアの必要な患者さんについても、がんリハビリテーション資格を持つスタッフによる疼痛の少ないポジショニングや離床訓練などを通じて患者さんがより快適に過ごせるようにしています。

さらに、このコロナ禍にあっては、陰圧室を1室設け、新型コロナウイルス感染症が疑わしい患者さんの対応ができるようになりました。入院患者さん



には、オンライン面会で対策をしてきましたが、新型コロナワクチンの接種が進んでいることから、2回目の接種から2週間以上たった方については、患者さんと直接面会できるようにし、できるだけ患者さんがご家族と疎遠にならないように努めています。

■新病院の移転について

水の都記念病院は、昨年5月に新築移転しました。新しい病院には、24時間換気システムを採用し、2つのリハビリルームで外来患者さんと入院患者さんの動線を分けて、新型コロナ感染症にも対応できるようになっています。また、外来を建物の中心に配置したことで、患者さんが回遊できる便利な動線になりました。病棟も個室を数多くしており、新しい病院は、患者さんが病院生活を快適に過ごせることがコンセプトとなっています。

■水の都記念病院からのメッセージ

水の都記念病院を含む三成会グループには、介護老人保健施設、サービス付高齢者向け住宅があり、急性期から療養、退院後の介護サービスにも対応していますので、患者さんに安心して受診していただきたいと思います。開院以来「かかりつけの患者様重視」を経営理念に掲げており、今後も現状を強化しながら、民間病院の強みも活かしつつ、変わらず地域のための診療をしていきます。

「地域医療連携」について

徳島大学病院患者支援センターでは、大学病院と地域の医療機関との円滑な橋渡しをめざして、大学病院での高度先進医療から、患者さんがお住まいの地域の診療機関と連携し、在宅療養へと継続できるようサポートしています。

問い合わせは

医療法人 三成会
水の都記念病院
徳島県徳島市北島田町
1丁目4番11
TEL.088-632-9299

■説明は
佐々木 克哉 病院長
(ささき かつや)



受付

病院のお仕事いろいろ

患者さんに
寄り添うリハビリを



医療技術部
リハビリテーション部門
理学療法士

川村 由佳
(かわむら ゆか)

病気、怪我や高齢などによって身体機能が低下した状態の患者さんに対し、基本動作となる起き上がりや起立、歩行の維持・改善を目的に運動療法や物理療法(温熱、電気などの物理的手段を用いるもの)を行うのが理学療法士の仕事です。徳島大学では様々な診療科の、小児から高齢者まで幅広い年齢の患者さんのリハビリを行っています。

理学療法士という仕事に興味を持ったきっかけは、高校生の頃に祖母のリハビリ風景を見学したことでした。患者さんの気持ちに寄り添って、その人の生活をより良くする素敵な職業だと思い、理学療法士を目指しました。患者さん一人一人の状態に合わせて、どのようなリハビリがよいのか日々模索しながら業務にあたっています。回復に時間を要して歩けなかった患者さんが歩けるようになったり、患者さんご本人から「動きやすくなった」などの言葉をいただいたりすると、やりがいを感じます。

現在は脳卒中の患者さんを中心に担当していますが、それまではがん患者さんのリハビリを多く担当してきました。がん患者さんは抗がん剤など治療の影響で身体機能が低下してしまうことが多く、身体機能の維持や改善のためのリハビリが必要となるケースがあります。また、緩和ケアに移行された患者さんに対してもリハビリを行う場合もあり、患者さんが希望するより良い日常生活を送るためにはどのような介入を行うべきか悩むこともあります。作業療法士、言語聴覚士、医師、看護師、臨床心理士など他職種と連携し、患者さんの生活がより良いものとなるサポートができるように努力しています。

これからも病院内の多くの医療スタッフと情報共有、連携を大事にし、患者さんに寄り添うリハビリテーションを行うことができるよう取り組んでいきたいと思っています。



治験を実施しています

現在、開発中の医薬品の候補(治験薬)あるいは医療機器を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品や医療機器としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 尿路上皮癌 ●腎細胞癌 ●小児2型糖尿病
- 筋層浸潤性膀胱癌 ●てんかん ●網膜静脈閉塞症
- 転移性去勢抵抗性前立腺癌 ●網膜静脈閉塞症
- 肺癌 ●肝細胞癌 ●肝硬変 ●間質性膀胱炎
- 多発性骨髄腫 ●潰瘍性大腸炎 ●統合失調症
- クローン病 ●大うつ病
- 心臓リハビリテーションの適応となる心疾患

ちけん君は日本医師会治験促進センターのキャラクターです。

問合せ：総合臨床研究センター
tel.088-633-9294

ご協力
お願い
します。



入院日用品レンタルサービス「CSセット」専門企業



『CSセット』とは?

入院時に必要となる日用品やおむつ、タオル類、衣類等を洗濯付きでレンタルできるサービスです。

DELAN
株式会社エラン

東証一部上場(証券コード:6099)

お問い合わせはこちら

TEL 0263-29-2680(9:00~17:00)

Mail request@kkelan.com

